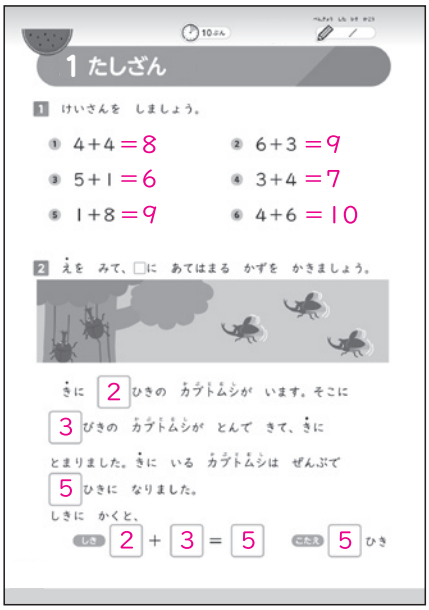
1 たしざん



おうちのかたへ

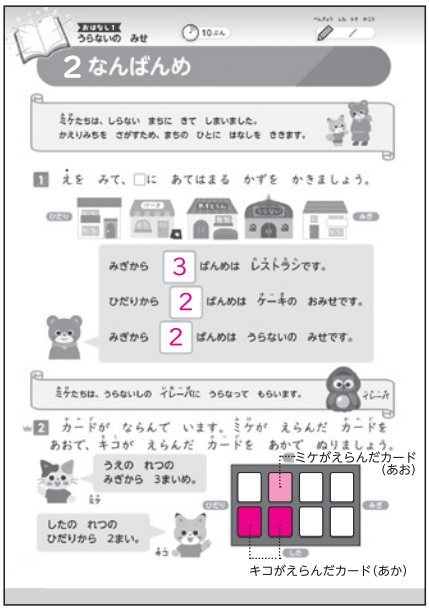
1は、10までのたし算です。もしお子さまが指を使って計算していても、無理に止める必要はありません。まずは「いくつといくつ」の学習に戻り、おはじきや硬貨などの具体物を使って「4と4で8」「5と1で6」などと声に出しながら数える経験を重ねましょう。

このように数の合成・分解を繰り返すことで、頭の中に数量のイメージ（数の概念）が定着していきます。概念さえ身につけば、自然と指を使わずに計算できるようになっていきます。

2は、「増加（ふえるといくつ）」の場面です。もともと木にいる「2匹」に新たに「3匹」が加わることから、「3+2」よりも、「2+3」のほうが、問題文に合った式となります。

たし算やひき算は、単に計算方法を覚えるだけでなく、式が意味する場面を具体的に理解することが大切です。式は、場面を数字と記号を用いて表すものです。文字だけの問題文を読んだときに、イラストのような場面を思い浮かべられるようになるとよいでしょう。

2 なんばんめ



おうちのかたへ

物語を読みながら「なんばんめ」の単元の問題を解いていきます。

1では同じ「2番目」でも左から数えるか右から数えるかで違うお店を表すことに注意が必要です。左と右のどちらを基準にして数えているのかを一緒に確認するようにしましょう。「上（下）から」「左（右）から」の他に、基準を表す言葉には「前（後ろ）から」などもあります。

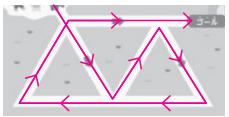
2では、「ひだり」「みぎ」と「うえ」「した」の2種類の基準を組み合わせて物の位置を表しています。こうした数を用いた物の位置の表し方は、後に学習する座標を用いた位置の表し方につながります。日常生活の中でも、例えば自動販売機で飲み物を買う際には、「お茶は上から○段目の右から□本目にあるね。」といった声かけをすると、より一層理解が深まるでしょう。

3 ひとふでがき できるかな？

おうちのかたへ

進み方は下の図の3通りがあります。

❶ 右下→右上→右下→左→左→右上→右→右

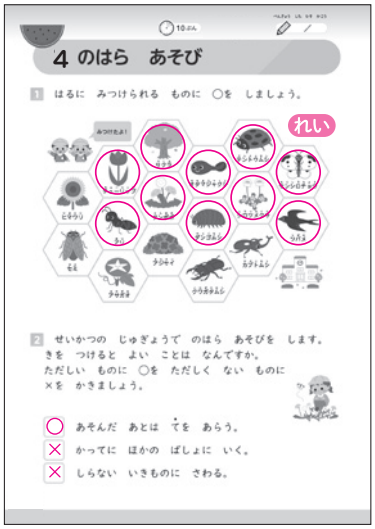


❷ 右下→左→右上→右→右下→左→右上→右

❸ 右→右下→左→左→右上→右下→右上→右

1学期のまとめも 読書感想文も
Z会 × ちびむすドリル
夏休みドリル 1
夏休みドリル 2
夏休みドリル 3
夏休みドリル 4
夏休みドリル 5
夏休みドリル 6

4 のはら　あそび



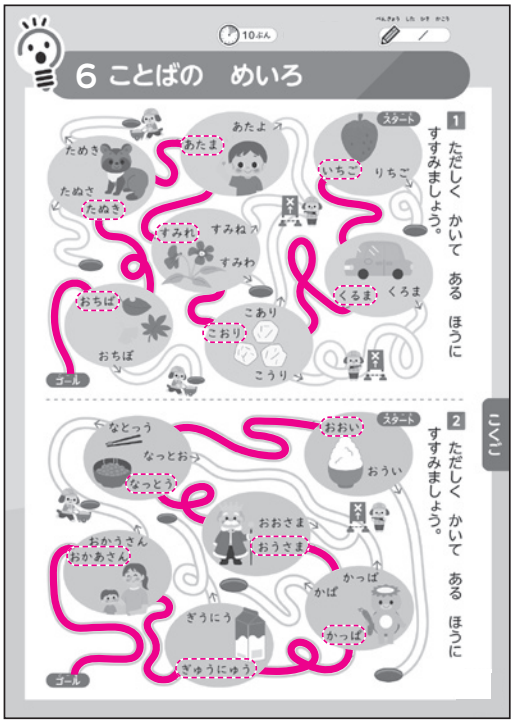
おうちのかたへ **1** 春に観察できるものは地域によって異なるので、模範解答通りでなくても構いません。お子さまが春に見たことがあるものを選択できていれば正解としてください。

5「゛」「゜」の つく ことば

おうちのかたへ **1** は、欠落している濁点、半濁点を補う問題です。お子さまが迷っていたら、まずは濁点、半濁点のないまま音読するようにうながし、「どこが変かな?」などと声をかけて、考えてもらうようにしましょう。

2 は、濁点、半濁点がふくまれる言葉を書く問題です。絵に合う言葉を考えます。お子さまが正解と異なる解答（「やぎ」を「どうぶつ」「ひつじ」を書いていても、濁点が正しく打てているかを確認して、○をつけてあげましょう。そのうえで、「マスは2つだよ。あてはまる動物は何かな?」などと声をかけて、正しい答えに導いてあげましょう。

6 ことばの　めいろ



おうちのかたへ **1** は、間違いやすい文字を使った迷路、**2** は、長音や促音、拗音など、間違いやすい言葉を使った迷路です。間違った方を選ぶと行き止まりになるので、楽しみながら、正しい表記を確認していくことができます。行き止まりになったときには、間違ったものと正しいものの両方を音読して確かめてあげましょう。

1学期のまとめも
読書感想文も
Z会 × ちびむすドリル
夏休みドリル 1
夏休みドリル 2
夏休みドリル 3
夏休みドリル 4
夏休みドリル 5
夏休みドリル 6